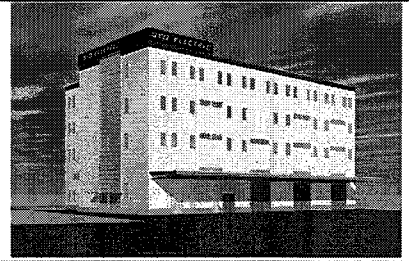


CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■ 後用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	応用電機(株)城陽工場F棟新築工事	階数	地上4F
建設地	京都府城陽市平川中道表63-1	構造	S造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	1,000 人
気候区分	5地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年3月 予定	評価の実施日	2015年6月25日
敷地面積	7,054 m ²	作成者	松本拓也
建築面積	1,343 m ²	確認日	2015年6月26日
延床面積	4,519 m ²	確認者	定森淳一



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%

②建築物の取組み 88%

③上記+②以外の 88%

④上記+ 88%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q1 室内環境: 2.9

Q2 サービス性能: 3.2

Q3 室外環境(敷地内): 2.0

LR1 エネルギー: 3.5

LR2 資源・マテリアル: 3.1

LR3 敷地外環境: 3.2

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.0

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
<ul style="list-style-type: none"> 室内環境の向上、サービス性能の確保に努めている。 エネルギー性能、敷地外環境への配慮を行う。 		0
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
<ul style="list-style-type: none"> 高い昼光率、照度を確保している。 自然換気性能に配慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> 耐用年数の長い部品・部材の採用に努めている。 階高、壁長さ比率を確保し、空間のゆとり配慮している。 	
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
<ul style="list-style-type: none"> LEDなどの、高効率設備機器を採用し建物の省エネルギー性能に配慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> 節水型水栓に加え、節水型便器の採用し節水に配慮している。 躯体と仕上材が容易に分別可能となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> LCCO₂の排出率が88%となっており、地球温暖化に配慮している。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される